

第3期下京区基本計画(案)



「住んでよし、働いてよし、訪れてよし、学んでよし」の下京区
～持続可能で活力に満ちた豊かな地域づくりに向けて～



令和3年3月
京都市下京区役所

目次

1	計画の位置付け	1
2	第3期下京区基本計画の概要	
	（1）計画の全体構成	2
	（2）策定に当たっての基本的な考え方・方針	3
3	下京区の特徴・魅力	4
4	下京区の東西エリアで進むまちづくりと今後の方向性	5
5	下京区の現状・課題と求められる方策	6
6	下京区がめざすまちの姿・スローガン	11
7	重点戦略	
	【戦略1】人口減少に立ち向かう地域コミュニティづくり	13
	【戦略2】はぐくみ文化の創造・推進	15
	【戦略3】誰もがいきいきとくらせるまちづくりの実現	17
	【戦略4】環境と調和したくらしが根付く持続可能なまちづくり	19
	【戦略5】危機にしなやかに対応し「いのちとくらし」を守るまちづくり	21
	【戦略6】京都の元気をけん引するまちづくり	23
8	計画の推進に当たって	26
9	参考資料	28
	計画策定の経過	

1 計画の位置付け

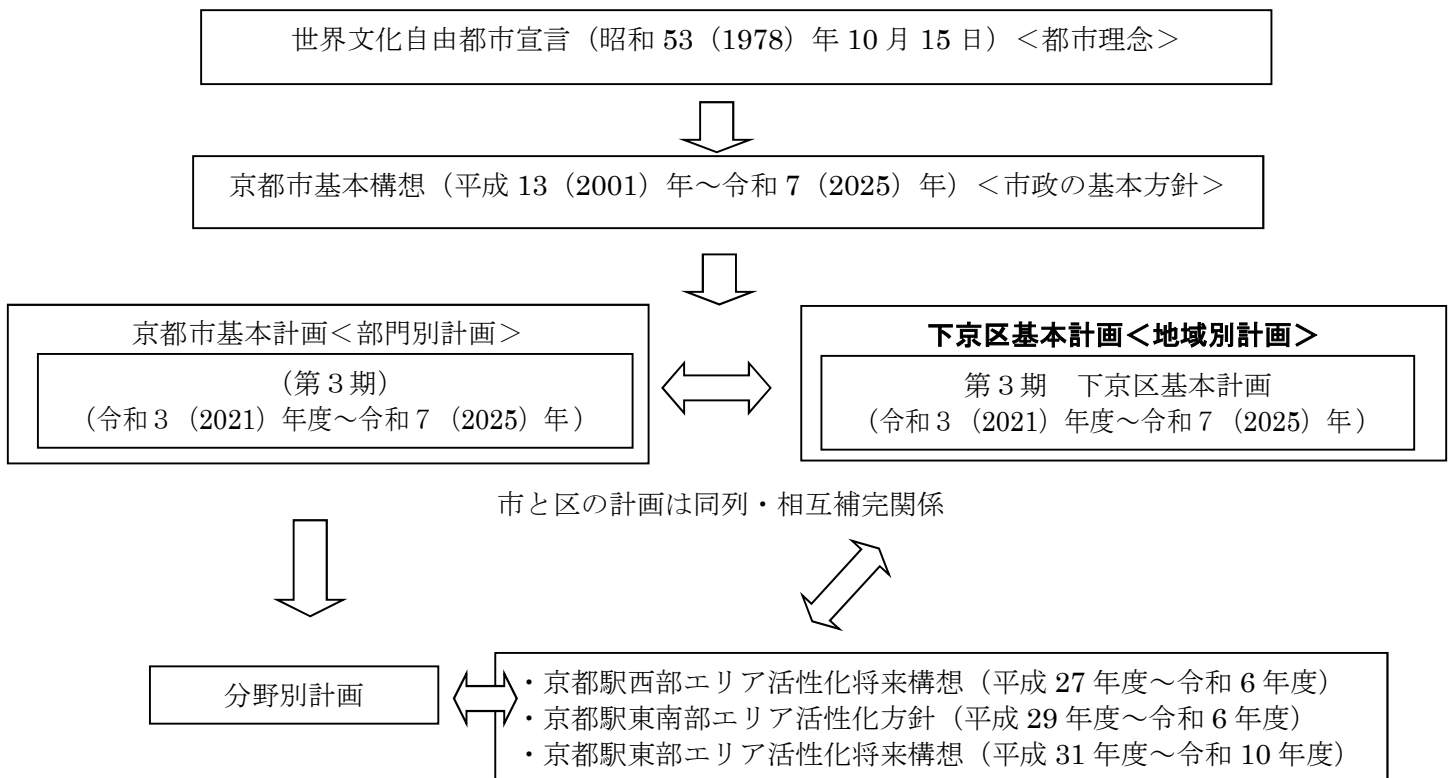
下京区では、平成 23 年 3 月に策定した「第 2 期下京区基本計画」（計画期間：平成 23 年度～令和 2 年度の 10 年間）に基づき、「人と人との絆をつなぐ」、「まちの資源や魅力をつなぐ」、「歴史と伝統を未来につなぐ」の各テーマにおいて、めざすまちの姿の実現に向け、区民の皆さんとともに計画に掲げる取組を着実に進めてきました。

この間、各地域で工夫を凝らしたまちづくり活動が展開されるとともに、京都駅西部エリアでは、梅小路公園を中心に水族館・鉄道博物館や新駅の開業などにより、まちににぎわいが創出され、京都駅東部エリアでは京都市立芸術大学（以下、「京都芸大」という。）の移転が決定し、文化芸術を基軸としたまちづくりが進んでいます。また、平成 31 年 3 月に下京区制 140 周年を迎え、区民や事業者の皆さんの参画・協力の下、多彩な記念事業*が展開され、「自分ごと、みんなごとのまちづくり」が大きく前進しました。

一方、地域活動の担い手の高齢化や少子化の進行、観光客の増加とそれに伴う宿泊施設の急増、災害の頻発、新型コロナウイルス感染症拡大など、地域を取り巻く新たな課題も生じており、それらの解決に向け、各主体が一層連携と協働を進めていく必要があります。

第 3 期下京区基本計画は、これら課題への対応と、第 2 期計画で取り組んだ成果やこれまで培われた区民、団体、事業者等の絆を生かし、下京区制 150 周年、そして 100 年先の未来に向けて、下京区のまち全体の活性化につながる取組をより一層推進するため、下京区民まちづくり会議や同部会等での議論を踏まえ策定するものです。

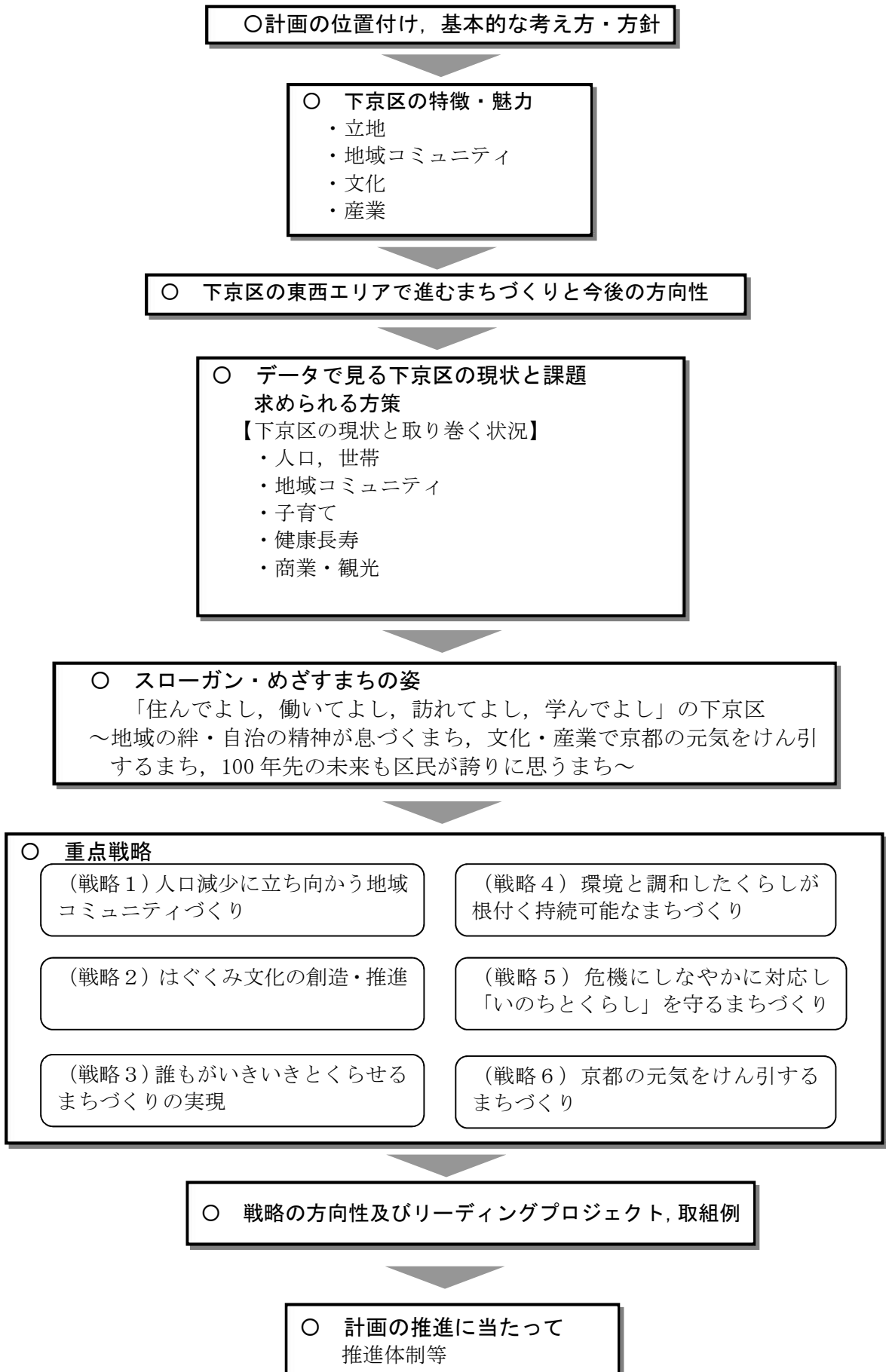
なお、この計画は令和 7 年までの京都のグランドビジョンである「京都市基本構想」に基づく地域別計画であり、全市の観点から取り組む主要な政策を示す「京都市基本計画」と同列・相互補完の関係となっています。基本構想の終期が令和 7 年であり、市基本計画と一体となって政策を進めていくため、計画期間は市基本計画の計画期間に合わせて**令和 3 年度から令和 7 年までの 5 年間**とします。



※ 下京区 140 周年記念事業：下京区制 140 周年（平成 31 年 3 月）を迎えるに当たり、平成 30 年から「100 年先の未来のために はじめよう！自分ごと、みんなごとのまちづくり」を共通テーマに、区内各地で実施された事業。

2 第3期下京区基本計画の概要

(1) 計画の全体構成



(2) 策定に当たっての基本的な考え方・方針

- 京都市基本計画に掲げる、「レジリエンス*」や「SDGs*」、**「文化力」**を分野横断的にとらえ、「人口減少」、「少子化対策」等に取り組み、**持続可能で豊かな地域社会を構築**します。

京都市基本計画では、人口減少や、レジリエンス、SDGsの重要性の高まりなど分野横断的な時代潮流を踏まえ、長年にわたり育んできた市民力・地域力・文化力を生かし、生活者を基点に、参加と協働で未来を切り拓くことを都市経営の理念にすえています。

下京区基本計画においても、それらの理念を計画全般に反映させ、持続可能な地域づくりを志向します。



- 下京区誕生140周年記念事業をとおして培われた区民、団体、事業者の絆を生かして、「自分ごと、みんなごとのまちづくり」をより一層推し進め、次の150周年に向けて**京都のまち全体の活性化につなげる**ものとします。

下京区は、平成31年3月に区制誕生140周年を迎えました。これを記念して、「100年先の未来のために はじめよう！自分ごと、みんなごとのまちづくり」を共通テーマに、200を超える多彩な記念事業が、区内23学区、団体、企業等の協力により行われ、連帯の輪が大きく広がりました。これらの成果を、次の150周年という節目に向けて、京都のまち全体の活性化につなげられるよう取り組みます。

- **「ウィズコロナ」「ポストコロナ」を見据えた「しなやかな強さ」を兼ね備えた地域づくり**を推進します。

祇園祭がさまざまな困難による中断を乗り越え、復活、今日まで継承されてきたことに象徴されるように、下京区民はこれまで幾多の困難を克服し、町衆による自治の精神の下、地域の伝統、祭を継承してきました。

令和2年、新型コロナウイルス感染症拡大という、誰もが想定し得なかった重大な危機に地域は直面しました。人と人のコミュニケーションはままならず、地域の活動や人々の生活、精神は大きな影響を受け、下京区内でも飲食店、商店や観光関連をはじめとする産業は存続の危機に立たされました。

今、「ウィズコロナ」から「ポストコロナ」を見据え、また、近年激甚化する災害等に対し、下京区民の困難を克服する「共助の力」で、これらの危機を乗り越え、しなやかで力強い持続可能な地域づくりを区民の皆さんとともに進めていきます。

※ レジリエンス：さまざまな危機からの回復力、復元力、強靱性（しなやかな強さ）を指す。

※ SDGs：国連持続可能な開発サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げる持続可能な開発目標（SDGs）のこと。17のゴールと169のターゲットからなる。

3 下京区の特徴・魅力

(1) 京都のにぎわいの中心地

- ① 下京区は市内 11 区で最もコンパクトな区域に、1 日 63 万人の乗降客[※]が行き交う京都の玄関口である京都駅をはじめ、四条烏丸、四条河原町など京都市の商業・ビジネスの中心地を擁し、公共交通網が発達し移動に大変便利な地域です。東には鴨川、西には梅小路公園があり、豊かな自然にも恵まれています。
- ② 京都駅西部エリアの梅小路公園には京都水族館や京都鉄道博物館など広域的な集客施設のほか、JR 梅小路京都西駅や商業・宿泊施設等の新規開業により新たなにぎわいが創出されています。一方、京都駅東部エリアは京都芸大の移転を控え、文化・芸術を核とした新たなまちづくりが進められています。

(2) 23 学区からなる地域コミュニティ

- ① 下京区は 23 学区で構成され、各学区では自治連合会、市政協力委員連絡協議会、各種団体等の活動の下、自治会、町内会を中心とした地域コミュニティが形成され、豊かな日常生活やまちづくり、防災など住民生活の安心安全を支える基盤となっています。
- ② 東部は番組小学校[※]が創設された学区を基礎に古くから形成されたまちである一方、西部は住宅・マンションの開発等により、若い世代が流入し、人口増加が顕著な地域です。各学区では、歴史文化資産等まちの資源・魅力を生かした取組や地域課題解決に向けたまちづくり活動が活発に展開されています。

(3) 伝統が息づく文化

- ① 祇園祭の山鉾町や番組小学校に代表される町衆の気概・精神が連綿と受け継がれ、地域の文化、教育、産業、コミュニティの形成に生かされています。
- ② 東西両本願寺など全国に宗派寺院を擁する仏教の本山が多く立地し、わが国宗教文化の一大拠点となっており、仏教関連の伝統産品を扱う店等で門前町が形成されています。
- ③ 島原に代表されるようにまちの随所に歴史的な景観、建物、文化遺産があり、近年は伝統的な町並みに溶け込む物販・飲食店やオフィス、宿泊施設などが多数立地。新たな文化を発信し、若者や観光客を惹きつけています。

(4) 京都経済をけん引する産業

- ① 生鮮食料品等の流通を担う基幹的インフラである京都市中央市場があり、京都駅や四条通周辺には京都の主要百貨店をはじめ商業施設が集積。京都経済の一翼を担っています。
- ② 町衆の生活文化や宗教文化を支えるものづくりや商業の拠点として発展した町であることから、伝統産業を守り、つなげる職人や商店が多く存在します。
- ③ 京都経済活性化に向けた新たな拠点として、「交流と融合」の場を提供する京都経済センターが平成 31 年に開館。また、多くの産業支援機関が集積する京都リサーチパークや創業・イノベーション拠点「淳風 bizQ(じゅんぷうびずく)」を中心として、次代を担う京都企業を創造する「スタートアップのまち」としての役割も担っています。

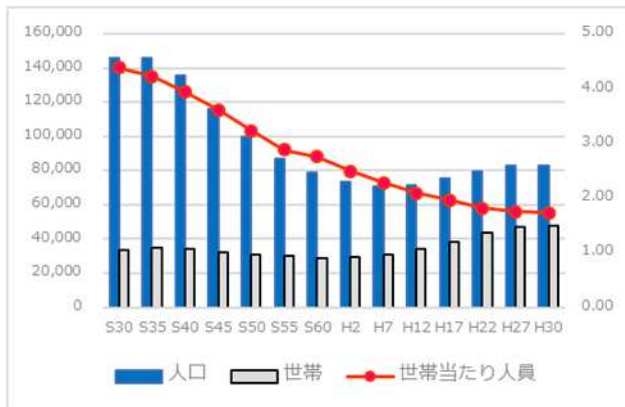
※ 1 日 63 万人の乗降客：京都駅における平成 30 年の JR 西日本、近鉄、市営地下鉄の合計人数（JR 東海の新幹線を除く）。

※ 番組小学校：明治 2 年、京都の町衆が主体となって地域（番組）ごとに創設された日本最初の学区制小学校（64 校が開校）。

5 下京区の現状・課題と求められる方策

(1) 人口・世帯

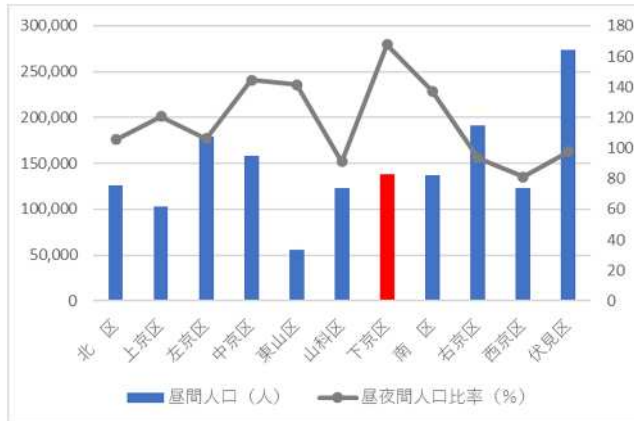
◆人口・世帯



出典：各年国勢調査，平成30年は京都市による推計人口(京都市統計書)より作成

✓人口は，昭和30年から半減し，平成7年を境に人口増加に転ずるも，近年は横ばい
 ✓世帯数は増加しているものの，世帯当たりの人員は縮小が進行

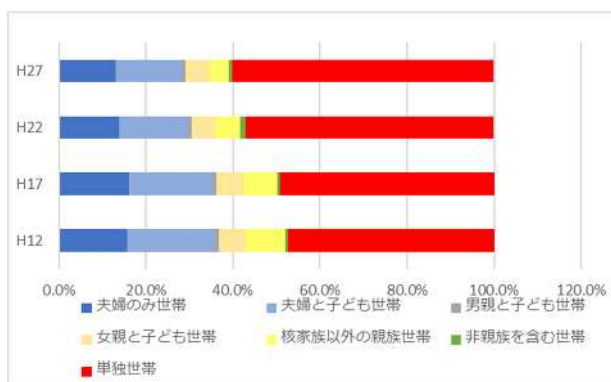
◆昼夜間人口比率



出典：平成27年国勢調査より作成

✓昼夜間人口比率は11区の中で最も高い状態が継続

◆家族類型別世帯数



出典：各年京都市統計書より作成

✓世帯類型では単独世帯（一人世帯）が増加

◆住宅の建て方・共同住宅比率



出典：各年国勢調査より作成

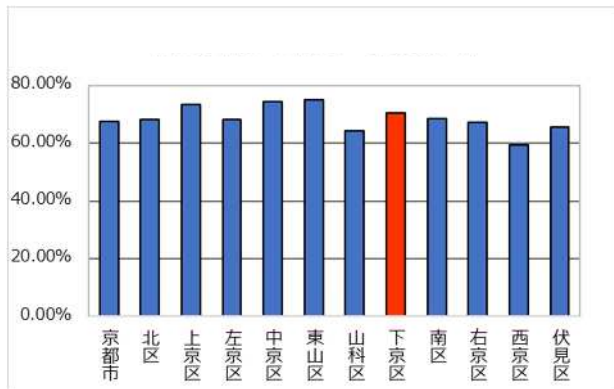
✓共同住宅が急増し、平成 27 年には区内住戸数の 70%以上を占有

<求められる方策>

- 他行政区と比べて昼夜間人口比率が最も高く、区外から訪れて活動・交流する人材が次世代の担い手として活躍できる環境づくりが求められます。
- 単独世帯の増加や 8050 問題※，潜在しているひきこもりについて早期相談につなげる環境づくり，地域や社会からの「孤立化」を防ぐ必要があります。また，災害時の要配慮者への対応や地域での見守り活動を促進することが求められます。

(2) 地域コミュニティ

◆自治会・町内会加入率

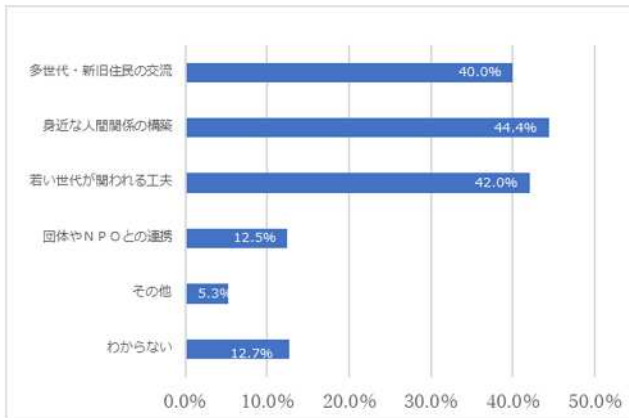


出典：京都市「自治会・町内会アンケート（平成30年度）」より作成

✓自治会・町内会加入率は低下傾向にあったが，平成 30 年にわずかに上昇し，他の都心区（上京・中京・東山）とともに市平均を上回る。

※ 8050 問題：80 代の親とひきこもり状態の 50 代の子が同居する世帯の孤立・困窮化に伴うさまざまな問題。

◆コミュニティ活動を維持するために必要なこと（複数回答）



✓「身近な人間関係の構築」「若い世代が関われる工夫」「多世代・新旧住民の交流」のそれぞれに強い期待

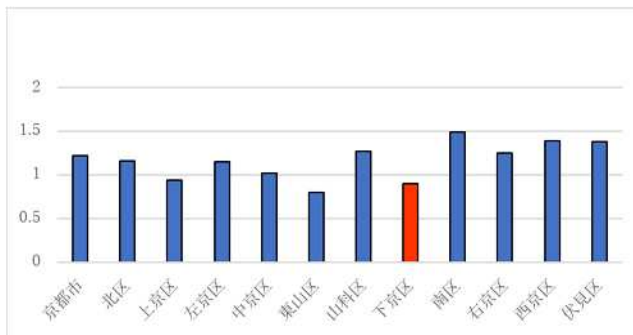
出典：第2期下京区基本計画に関する区民意識調査（平成30年度）より作成

<求められる方策>

- 自治会加入率の低下や担い手の高齢化などにより、地域が持つ「共助」の力の衰退が懸念されることから次世代の新たな担い手づくりが求められます。
- 自治体活動等においてもリモートワークによる働く世代の地域への回帰の機会をとらえ、若年層のコミュニティへの参加を促進させるとともに、助け合い、支え合いによる共助コミュニティを再興する必要があります。

(3) 子育て

◆行政区別出生率

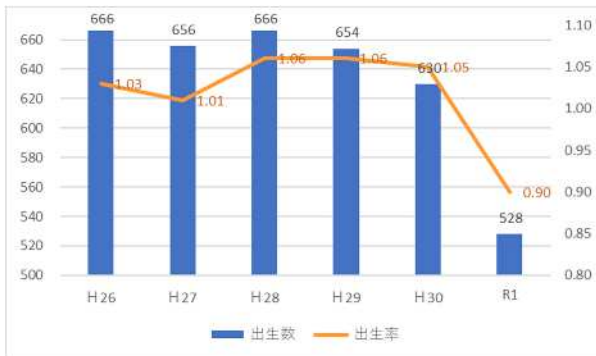


✓合計特殊出生率[※]は、長期に微増傾向、近年は横ばいも令和元年に低下し、東山に次いで低い。

出典：令和元年「京都市の合計特殊出生率」より作成

※ 合計特殊出生率：一人の女性が一生に産む子どもの数を表す数値。

◆下京区の出生率・出生数の推移



✓出生数は、直近の令和元年が最も少なくなっており、また、全国、京都府においても統計開始以降最も少ない結果となっている。

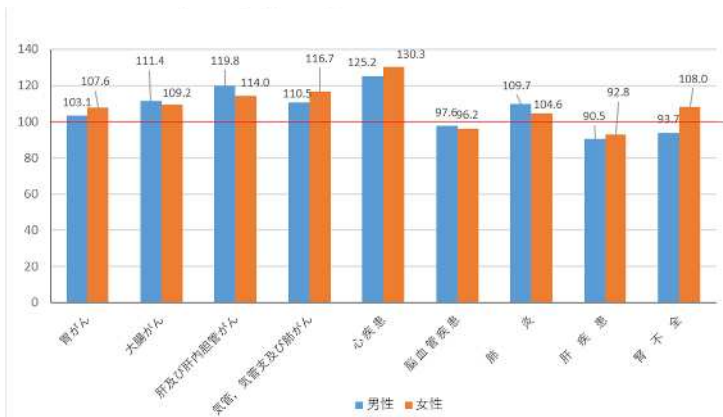
出典：平成30年までの出生数は「京都市衛生年報令和元年版」、令和元年の出生数は「人口動態調査（調査年月 2019年）」、出生率は「令和元年京都市の合計特殊出生率」より作成

<求められる方策>

- 少子化の進行やライフスタイルの変化、コミュニティの多様化による人と人とのつながりの希薄化に対し、個々の状況に応じたきめ細かな支援が求められます。

(4) 健康長寿

◆標準化死亡比※



✓心疾患の標準化死亡比は、女性は市内ワースト1、男性は市内ワースト3。
 ✓がんの標準化死亡比は高いが、概ね改善傾向にある。
 (参考) 全国市区町村別主要死因別標準化死亡比の推移 2009～2018年

出典：平成25～29年 人口動態保健所・市区町村別統計より作成

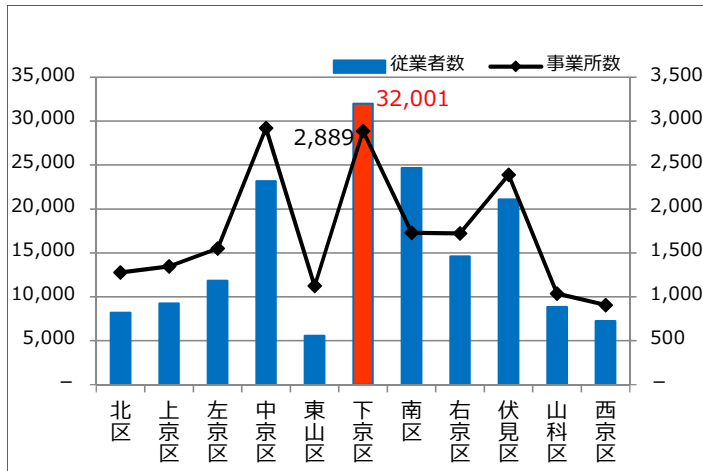
<求められる方策>

- 心疾患、特に狭心症や心筋梗塞等に加え、がん（胃、大腸、肝臓、肺）等の生活習慣病による死亡比が高く、禁煙、適度な運動や食習慣の改善といった健康課題への対策が求められます。

※ 標準化死亡比：全国を基準（=100）とした場合に、その地域での年齢を調査したうえでの死亡率（死亡の起こりやすさ）がどの程度高い（低い）のかを表したものの。

(5) 商業・観光

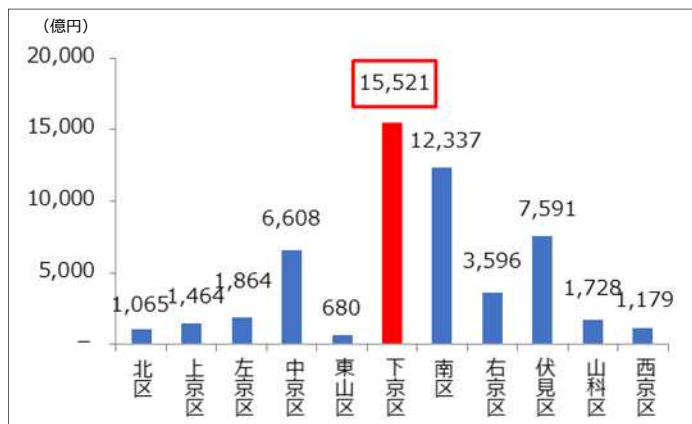
◆行政区別 卸・小売業の事業所数・従業者数



出典：平成 28 年経済センサス活動調査より作成

✓卸・小売業の事業所数は、中京に次いで 2 番目に多く、約 3,000 事業所がある。
 ✓卸・小売業の従業者数は、全行政区で最も多く、2 番目の南区より、7,000 人以上多い。

◆行政区別 卸・小売業の年間商品販売額



出典：平成 28 年経済センサス活動調査より作成

✓卸・小売業の年間商品販売額は、全行政区の中で最も高く、市全体の 3 割弱を占める。

<求められる方策>

- 卸・小売業の規模が市内一と商業の中心地である下京区は、梅小路公園周辺の賑わい施設の集積や京都芸大の移転等による京都駅西部・東部エリアの活性化のほか、新産業の創出拠点が集積するポテンシャルを生かし、京都全体の活性化をけん引していくことが求められます。

6 下京区がめざすまちの姿・スローガン

(1) めざすまちの姿

① 地域の絆・自治の精神が息づくまち

明治2年の番組小学校を誕生させた町衆の人づくりにかける思いと、地域の絆により幾多の試練を乗り越え再生してきた先人たちの自治の精神は、今も下京区23学区に脈々と受け継がれています。それらの歴史と伝統を背景に、地域コミュニティにおいては自助、共助、公助の力が発揮され、地域の絆・自治の精神が息づき、未来に受け継がれるまちをめざします。

② 文化・産業で京都の元気をけん引するまち

下京区は、これまで育んできた町衆の生活文化、宗教文化、伝統的産業と新産業の融合する産業文化が息づくとともに、商業施設やにぎわい施設、研究開発拠点や産業支援機関が集積し、国際文化観光都市・京都の玄関口として、京都の活力を担っています。新たなにぎわいや交流、産業、文化を創出し、京都の元気を一層けん引するまちをめざします。

③ 100年先の未来も区民が誇りに思うまち

100年後の未来を見据えて、より一層「住み続けたい」「働き続けたい」「また訪れたい」「学び続けたい」と思える、魅力あふれる下京区を実現するため、140周年を機に大きく前進した「自分ごと、みんなごとのまちづくり」を次の150周年、さらに100年先の未来に継承・発展させ、いつまでも区民が誇りに思うまち・下京をめざします。

(2) スローガン

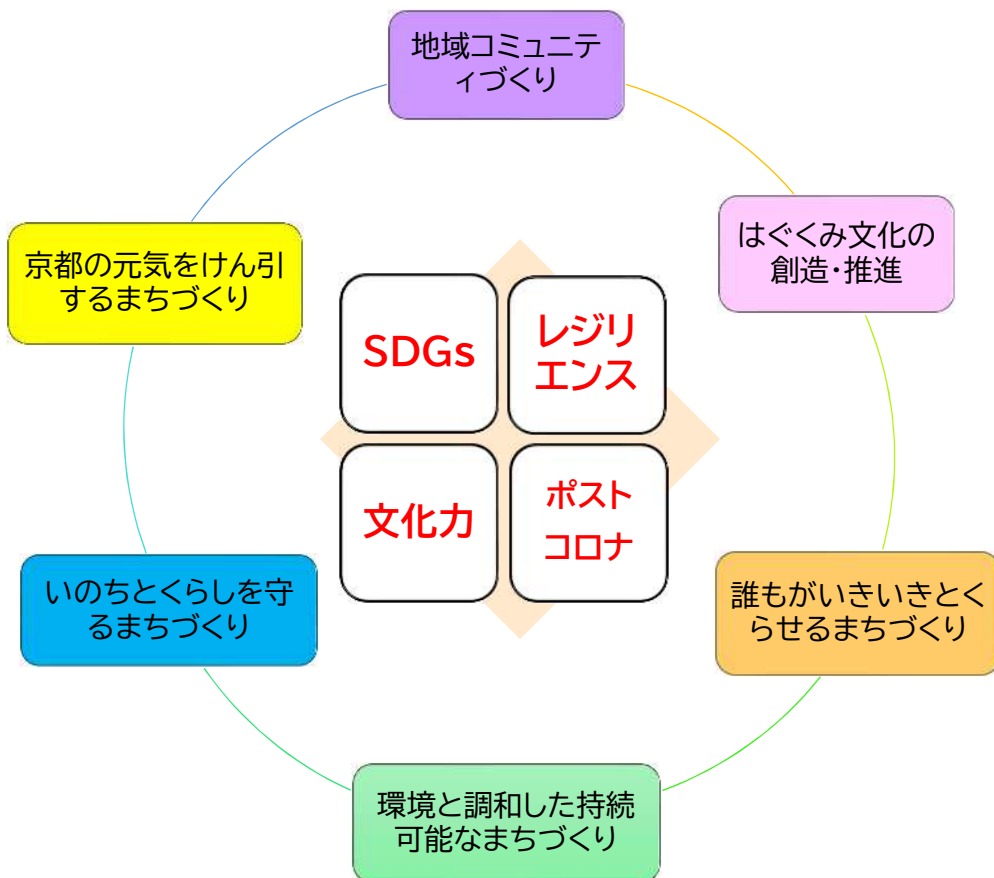
「住んでよし、働いてよし、訪れてよし、学んでよし」の下京区

～ 地域の絆・自治の精神が息づくまち
文化・産業で京都の元気をけん引するまち
100年先の未来も区民が誇りに思うまち ～

7 重点戦略

第3期下京区基本計画においては、下京区の現状・課題や現下の社会情勢を踏まえ、京都市基本計画に基づき、レジリエンス、SDGs、文化力、ポストコロナをよこ軸に、区民の皆さんとともに進めていくべき政策分野として、以下の6つの重点戦略を設定し、下京区がめざすまちの姿を実現するための取組を推進していきます。

- 【戦略1】人口減少に立ち向かう地域コミュニティづくり
- 【戦略2】はぐくみ文化の創造・推進
- 【戦略3】誰もがいきいきとくらするまちづくりの実現
- 【戦略4】環境と調和したくらしが根付く持続可能なまちづくり
- 【戦略5】危機にしなやかに対応し「いのちとくらし」を守るまちづくり
- 【戦略6】京都の元気をけん引するまちづくり



次頁以降の各戦略においては、重点的・先導的に進める取組として計14の「★リーディングプロジェクト」を設定し、区役所と区民、事業者、団体等の協働により、推進していくことをめざします。

また、各戦略の推進施策の柱ごとに、施策を具体的に進めるための「取組例」を掲げ、各主体がさまざまな検討を重ねながら実現に努めることとします。

戦略1 人口減少に立ち向かう地域コミュニティづくり

【方向性】

地域コミュニティの活性化に向け、多様な担い手による主体的なまちづくりを促進・支援し、自治会・町内会をはじめとする地域団体と、事業者・NPO・行政等が連携して地域課題を解決できるまちをめざします。

★リーディングプロジェクト ※（ ）内の番号は該当する【推進施策】の施策番号

★地域の事業者や外部（NPO、大学等）の方が町内会活動に参加しやすいしくみづくり（1）

地域活動のICT化など、地域課題の解決に資する取組に事業者や外部（NPO、大学等）の方が協力することで町内会活動参加へのきっかけとなるよう支援します。

★学区における「まちづくり委員会」※の設立・活動支援（2）

区内で既にまちづくり委員会を設立し、活動している学区の事例などを紹介し、他学区の設立に向けた機運醸成を図るとともに、設立に向けた準備活動や設立後の活動支援を行います。

★まちづくりサポート事業「SHIMOGYO+GOOD」※による社会・地域課題解決の推進（3）

まちの未来がよくなる活動を行う団体、事業者等への活動助成やアドバイス、団体間の連携促進を通じて、活動の充実・発展を支援し、「良いことがたくさん京都・下京区」づくりを推進します。

【推進施策】

（1）まちづくりを担う人づくり

地域活動のICT化、地域情報の発信・共有の推進やリモートワークによる働く世代の地域への回帰等を契機として、地域活動への若い世代の参画、事業者や学生など地域住民以外の多様な人・団体が参加・活動しやすいしくみづくりを支援します。

<取組例>

- 自治会・町内会等の地域活動のICT化を支援（地域活動の効率化、若年・壮年世代が入りやすいまちづくり）
- 学区情報の発信と情報共有、課題が共通する学区間の交流促進（下京総合Webサイト（仮称）の活用）
- 次世代の地域の担い手育成、地域行事への参加促進
- 地域企業や若手をはじめとする従業員が自治会、町内会に入りやすいしくみ、地域活動に参画できるしくみづくり
- 空き家等を活用した都心お試し居住住宅の提供、自治会参加等を前提とした学生居住推進



※ まちづくり委員会：地域住民が、地域の課題を共有するとともに、課題解決をめざして主体的に取り組むため、学区単位で設置される委員会。

※ まちづくりサポート事業「SHIMOGYO+GOOD」：区民の方々等が地域力を生かして主体的に行う活動を支援する補助金事業。

(2) 持続可能な地域コミュニティづくり

区民の交流促進や地域の歴史文化の継承による世代間の交流促進、さまざまなまちづくりの課題や危機的な状況に対し、住民同士が支え合う「共助」の取組により、危機を乗り越え、課題解決を図るなど、区民による持続可能な地域コミュニティづくりを支援します。

<取組例>

- 区民の交流促進，協働推進（下京区ふれあい事業，区長 Meetup 等）
- 地域に残る歴史・文化，伝統産業，祭り，生活文化等の次世代への継承と世代間交流の推進
- Web や SNS による住民同士の交流をリアルな交流に発展させるなど地域活動における Society5.0[※]の推進
- 新しい生活様式の下での地域活動（会合，夏祭り，地藏盆，各種スポーツ大会など）支援
- コロナの影響で打撃を受けている地域の商店街や飲食店等を地域で支え合う機運の醸成とキャンペーン展開等の地域一体となった取組への支援
- 学校跡地の有効活用に伴う地域活動施設（自治会館等）の整備支援

(3) 社会・地域課題を解決するしくみづくり

多様化する社会・地域課題の解決のために，地域，事業者，団体，学生等が連携して取り組む活動を支援します。

<取組例>

- 地域課題解決に向けた地域と団体，事業者，学生等との連携支援
- 京都中小企業家同友会下京三支部との連携による地域課題の解決及び域内経済循環促進による下京区の持続可能なまちづくりの推進
- 地域と調和した宿泊施設の普及支援
- マンション管理組合との連携によるマンション住民との交流促進，町内会加入促進

～区民による取組事例～

マンション入居者の町内会加入を促進

―七条第三学区自治連合会マンション対策委員会―

七条第三学区では，子育て世代を中心に近年人口が急増する一方，工場跡地などに建設された大型分譲マンションの入居者で町内会に加入する人は少なく，学区全体の町内会加入者数は減少していました。そこで，学区の自治連合会は平成 28 年にマンション対策委員会を立ち上げ，主に分譲マンション入居者に向けて，町内会の加入・設立を促す活動を始められました。

これまで，マンションの管理組合に働きかけて説明会を開くなど積極的に活動され，人間関係を築く中で，委員会の活動に協力してくれる入居者も少しずつ増えてきました。町内会を助け合いの場と感じてもらえるよう，未加入のマンション入居者への呼びかけを継続して行われています。



▲加入促進のためのリーフレット

住民みずからさまざまな地域課題を解決

―有隣まちづくり委員会―

有隣学区では，マンションの急増をきっかけに平成 14 年に「有隣まちづくり委員会」が発足し，以来さまざまな地域課題の解決に向け取り組まれていいます（ワンルームマンション対策として地区計画の策定をはじめ，空き家対策・活用促進のための冊子や，急増する宿泊施設との共生をめざすマニュアルの作成など）。近年は防災まちづくりの取組に力を入れ，防災まちづくり計画の策定や，オンラインでの防災まちづくりマップの活用など先進的な取組に加え，平成 30 年 7 月の大雨時に避難所を開設した経験から，地域住民との交流の場「ゆうりんカフェ」において避難所運営ゲームを行うなど，住民が参加しやすい工夫が盛り込まれ，まちづくり委員会の活動が地域に浸透しています。



※他の学区でも，まちづくり委員会が設立，活動されています（P5 参照）。

※ Society5.0 : IoT(Internet of Things), ロボット, 人工知能(AI), ビッグデータ等の新たな技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れてイノベーションを創出し, 一人一人のニーズに合わせる形で社会的課題を解決する新たな社会。

戦略2 はぐくみ文化の創造・推進

【方向性】

地域や支援機関，企業等も含めた全ての関係者が子育ての楽しさ，素晴らしさをともに感じながら，地域ぐるみで子ども・若者・子育て家庭を大切にすることで，安心して子どもを生み育てられる環境づくりによる移住・定住促進，はぐくみ文化の創造・推進を図ります。

★リーディングプロジェクト

★団体，企業等との連携により地域ぐるみで子育てを支援する「下京みらい数珠つなぎプロジェクト」*の推進（1）

文化・芸術，くらしの文化に関わる団体や企業等との連携を強化し，その活動を広く子育て家庭に届けることで豊かな感性や人間性を地域ぐるみで育む環境づくりに取り組んでいきます。

★企業・職人等との連携による子ども・若者を対象とした職業体験や歴史講座等の実施（3）

下京区内の多種多様な企業や職人の仕事に触れる機会や，歴史的な魅力に触れる機会を通じて，子ども・若者が将来にわたり下京区内に住み，働き，学ぶ意識を育てます。

【推進施策】

（1）子どもと家庭をオール下京（区民，事業者，行政等）で育む環境づくり

あらゆる人や機関がつながって，子どもを社会の宝として地域ぐるみで楽しく子育てができるよう，妊娠期から切れ目なく，子どもとその家庭を身近な地域で温かく見守り支える環境づくりを進めます。

<取組例>

- より良い未来を子どもたちに贈りたいと願う企業等によるイチバンボシギフト*との連携
- 子育て系ソーシャルビジネスとの連携（行政サービスでは補えない，小さな困りごと，日常の質問に答えられる支援）
- まち全体をキャンパスに見立てた教育プログラムなど新たな学びのスタイルの創出
- 団体・企業・地域の連携による「下京はぐくみ EXPO（仮称）」の開催
- 子育てサロンや地域の見守り活動など自主的な活動
- 児童館等の子育て支援機関と関係団体等との協力連携

* 下京みらい数珠つなぎプロジェクト：下京区全体で子どもの生きる力を育み，地域共生社会の実現をめざす取組。

* イチバンボシギフト：イチバンボシギフト実行委員会が行う，0歳児とその家族の誕生を祝し，愛のギフトBOXを届けるプロジェクト。

(2) 特に支援が必要な子ども・若者・家庭等への切れ目のない支援

孤立を防ぎ、誰もがその人らしく生きることができるよう、不登校、ひきこもり、虐待被害などの子ども・若者や貧困家庭・ひとり親家庭など、特に支援を要する子ども・若者や家庭等に対する切れ目のない支援を進めます。

<取組例>

- 「こども食堂」や「コミュニティ食堂」など安心して過ごせる居場所づくりの取組への支援
- 児童館や青少年活動センターなど、子ども・若者が気軽に相談でき、安心して過ごせる居場所機能の確保・充実
- 保護者同士のつながりの場づくり、保育士・栄養士・助産師等の専門家チームで子育て家庭を支えるしくみづくり
- コロナ禍で活動が制約される児童や生徒、学生等へのオンラインを活用した学び、交流の場の提供
- 不登校やひきこもりの子ども・若者の居場所づくりと才能の開花支援
- 虐待の予防や早期発見などのための地域のつながりの強化

(3) 子ども・若者がさまざまな機会を与えられ、主体的に学び、育つ環境づくり

子どもや若者が多様な価値観を持ち、まちを愛する人に育つよう、学業やスポーツ、文化活動のみならず、職業体験や地域活動など多様な経験を通して達成感を得るとともに、自己肯定感を高めることができる環境づくりを進めます。

<取組例>

- 子ども・若者の地域活動や社会体験等を通じた、やりがいや楽しさの実感づくり、自己成長の促進

(4) 働くことと子どもを産み育てることを両立できる社会づくり

子育てをしながら働きやすい環境づくりや柔軟で多様な働き方の実現など、真のワーク・ライフ・バランス*を実践する企業の裾野を広げるため、新しい働き方のモデルを下京区から発信・提案します。

<取組例>

- 子育てにやさしい職場環境づくりを実践する企業・団体等の取組例に関する情報発信



* 真のワーク・ライフ・バランス：ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の考えに加え、「地域・社会への参加・貢献」に重点を置いた京都市が独自に提唱する考え方。

戦略3 誰もがいきいきとくらせるまちづくりの実現

【方向性】

世代や分野を超えてさまざまな人や団体等が連携し、住み慣れた地域の中で誰もが「笑顔」で自分らしく、生きがいを持ち、健康に安心して暮らし続けることができるとともに、互いに違いを認め合い、支え合う地域社会、人権文化を構築すること等を通じて、都市のレジリエンス向上を図ります。

★リーディングプロジェクト

★「ひきこもりを考える講演会」や「家族交流会」等の開催及び個別支援の充実（1）

8050問題等を背景に、さまざまな困難を抱え孤立しがちなひきこもり当事者や家族を、必要な支援につなげるとともに、ひきこもり等を家族だけの問題とせず、地域社会全体で取り組むべき課題としてとらえ、より早い段階から相談につながる環境づくりを推進します。

★「フレイル^{*}と生活習慣病の予防」による「健康長寿のまち・下京」の推進（2）

下京区の健康課題として特徴的な心疾患やがん等の生活習慣病の発症や重症化は、生活機能の低下を招き、フレイルの要因ともなります。生活習慣病の予防のために健（検）診受診率の向上に取り組むとともに、低栄養等のさまざまな要因を含めたフレイル及びオーラルフレイルの予防に係る知識の周知、区民が実践できる健康づくりの啓発等の取組を推進します。

【推進施策】

（1）異文化や多様な生き方を認め合い、誰一人取り残さない支え合いのまちづくり

地域の「絆」や「顔の見える関係」を構築するため、地域における多様な「見守り活動」や「居場所づくり」を進めます。また、事業者との連携による就労や社会活動の実施、障害のある人によるピアサポート（同じ立場の人による支援）など、障害のある人が地域でいきいきと自立して生活できる環境づくり、ひきこもりなど課題を抱える人やその家族に寄り添い、必要な支援に結びつける取組を継続的に推進します。

＜取組例＞

- 「子ども・子育て世代」と「高齢者」間の世代のつながりづくり
- 事業者との連携による障害のある人が活躍できる事業モデルの創出
- 地域店舗との連携による高齢者等の買い物支援と見守り活動の推進
- 民生児童委員や学区社会福祉協議会、社会福祉施設の代表者等と行政で構成される「下京区地域福祉推進委員会」の取組を通じた、多様な主体の協働による地域づくりの推進
- 地域・行政・医療等関係機関や民間との連携による高齢者等見守りネットワークの充実、民生児童委員、社会福祉協議会等との連携による「京都市版地域包括ケアシステム」の一層の構築
- 医療・介護関係者向け研修会などによる、医療と介護のさらなる連携の推進
- 社会福祉協議会やハローワーク等との連携による生活困窮者等の自立支援の一層の促進
- 高齢者、障害のある人の居場所、活躍の場づくり（伝統産業と福祉、農業と福祉の連携や商店街店舗での作品展等）、こころの病への理解を深める取組の展開
- すべての人の人権を尊重する人権文化の構築、外国籍区民等^{*}がもつ異なる文化的背景や価値観等を尊重し、多様性を生かした協働によるまちづくりの推進（人権月間等での効果的な啓発など）
- 顔の見える関係づくり、多様な居場所づくり、地域における見守り活動

※ フレイル：加齢により心身が衰えた状態。ただし、早期に対策を行えば元の健常な状態に戻る可能性がある。

※ 外国籍区民等：外国籍の区民に加え、海外にルーツを持つ日本国籍の区民や帰国児童生徒も広く含む。

(2) 人生100年時代を見据えた健康で心豊かに過ごせ、活躍できるまちづくり

すべての区民が生涯にわたって健康でいきいきと暮らし、社会や地域の活動に参加し、活躍できるよう、主体的な健康づくりに取り組む意識の啓発や介護予防の推進、感染症予防のための新しい生活スタイルを踏まえた心と体の健康づくりを支援します。

<取組例>

- 企業等と連携した働き盛り世代と取り組む健康づくりの推進，新しい生活スタイルを踏まえた健康づくりの普及促進
- 体育振興会連合会，スポーツ推進指導員会等との連携による各種スポーツ大会等を通じた区民の健康づくりの推進
- フレイル予防のために公園等を利用した筋トレ体操の推進
- 個人や家族等の年齢やライフスタイルに応じた食育，お口の健康づくりの普及促進



戦略4 環境と調和したくらしが根付く持続可能なまちづくり

【方向性】

2050年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」の目標達成に向け、ごみの出ない循環型のライフスタイル・ビジネスモデル・地域社会への転換、環境問題を解決するイノベーションの促進、生物多様性の保全を学ぶ機会の創出や環境に配慮した実践活動の担い手育成等を通じて、持続可能な循環型社会の実現をめざします。

★リーディングプロジェクト

★区内企業によるソーシャルプロダクツ*の発信支援，区民への利用推奨（2）

区内企業が開発・販売するソーシャルプロダクツの普及支援を通じて、区民の環境配慮への意識の向上とエコ分野におけるソーシャルビジネス促進を図ります。

★地産地消や自然・生物との共生の大切さ，地球温暖化対策，ごみ減量等について学ぶ機会の創出，環境保全活動の担い手づくり（3）

地域で地球環境問題への認識を高め、新たな環境保全活動の担い手を育成するため、環境保全活動に取り組む団体等と連携して、環境問題をさまざまな観点から学び、実践する機会の創出に努めます。

【推進施策】

（1）徹底した省エネやごみ減量，脱炭素社会に向けた取組の推進や門掃き，打ち水等，京のまちに息づく生活習慣の継続

「ごみを出さない，限られた資源を有効に活用するライフスタイル」の定着を図るため、「もったいない」「しまつ」といった，先人たちの精神や知恵を生かして「食品ロス」や「プラスチックごみ」の削減などに取り組みます。

<取組例>

- 食品ロス，使い捨てプラスチック等のごみを中心とした2R（リデュース：発生抑制，リユース：再使用）及び分別・リサイクルの徹底やリニューアブル*の推進
- まちの強みである学区単位の活動，自治会・町内会等の地域力を生かした地域密着型の資源物回収の取組の推進
- 「もったいない」「しまつ」といった先人たちの精神や知恵を生かした2Rや分別・リサイクル，リニューアブル等の推進，門掃き，打ち水等の京のまちに息づく生活習慣の継続
- エコ学区の取組推進，地域での清掃活動，自然・生態系学習（高瀬川等），緑化活動（花いっぱい運動等）への参加，学区におけるエコ活動の推進

※ ソーシャルプロダクツ：エコ（環境配慮）やオーガニックなどに関連する人や地球にやさしい商品・サービスの総称で，生活者がよりよい社会づくりへの参加（社会貢献）が可能なもの。

※ リニューアブル：石油等の化石資源と比べて短時間で再生できる資源（再生可能資源：植物などの天然資源）を原材料として利用することで，資源の枯渇や温室効果ガスの発生を抑制するという考え方。

(2) 区民によるソーシャルプロダクツの利用促進をはじめソーシャルビジネスの普及

あらゆる区民や団体、事業者が一体となって、環境問題を解決するためのイノベーション、商品開発などに取り組み、それらの利用促進を図ることで、環境に配慮したライフスタイルを実現します。

(3) SDGsの理念を生かした地域レベルでの活動促進

地球環境と調和した持続可能な社会を実現するため、いのちの大切さや生物多様性について子どもの頃から実感できるよう、自然とふれあい、地産地消の大切さを学ぶ機会を創出するとともに、環境にやさしい実践活動の担い手を育成します。

<取組例>

- 商店街等での生鮮食品・惣菜購入時の「マイタッパー」の導入
- 地域の小売店を繋ぐプロジェクト（フードバンクを活用し、子ども食堂に提供）
- 伝統工芸やその素材等を通して自然環境保護やサステナブル（持続可能）な社会づくりの大切さを知る機会の創出
- 事業者や区民への省エネルギーの推進及び再生可能エネルギーの普及（再エネ設備導入、再エネ由来電力のグループ購入など）
- 公共交通、自転車利用の促進、「歩くまち・京都」の推進



戦略5 危機にしなやかに対応し「いのちとくらし」を守るまちづくり

【方向性】

区民・事業者・行政等の一層の連携強化，一人一人の防災や減災に対する意識の啓発等による「地域防災力」の向上に取り組み，災害に強いまちづくりを推進します。また，防犯・防火活動，交通安全対策を継続して実施し，子どもや高齢者をはじめ，誰もが安心安全にらせるまちづくりを推進します。

★リーディングプロジェクト

★工夫を凝らした防災啓発の推進（楽しみながら学べる防災訓練プログラム（体験型防災ゲーム），防災・福祉まち歩き会，減災カフェ，避難所運営ゲームなど）（1）

地域で日常的に防災への意識を高め，有事の際の適切な避難行動につなげるため，ゲーム等の手法を用いて楽しみながら防災行動を学べるプログラムの各地域への展開を図ります。

★空き家・空き店舗の有効活用（地域の居場所，オフィス，芸術拠点など）による空き家対策の推進（2）

防犯・防災上も危険な状況にある地域の空き家の解消を図るとともに，空き家を地域課題の解決や地域活性化につなげるため，空き家の有効な活用手法を地域，事業者，行政の連携により検討，創出します。

【推進施策】

（1）レジリエントな地域づくりに向けたオール下京（区民，事業者，行政等）で取り組む地域防災力の向上

区民，事業者，行政などあらゆる人や団体が世代や立場を超え，一丸となって，防災・減災意識の向上といざというときの備えや訓練に取り組めるよう，効果的な防災啓発やICT等の先端技術の活用，避難所利用に関する事業者との連携支援など災害に強いまちづくりを推進します。

<取組例>

- 「下京区民 水災害対応マニュアル」や危険箇所を示すハザードマップ等の活用による防災情報の共有，避難が必要な人の円滑な避難支援体制の構築
- スマートフォンを活用した防災マップなど，ICTの活用の検討
- 地域と協働した，防災・防犯をテーマとするソーシャルビジネスの創出
- 事業者の防災訓練への参加促進
- 事業者との災害時応援協定による連携強化
- 地域と宿泊施設との連携支援（災害時の避難所利用の協定締結や町内会活動への参画等）
- 「新しい生活様式」*を踏まえた形の避難所運営
- 地域の防災活動や防災訓練への積極的参加と，防災・減災意識と災害対応力の向上
- 地域の要配慮者（高齢者，障害のある人，子ども，外国籍区民等）への災害時の対応に向けた連携

* 新しい生活様式：厚生労働省が提示する新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として今後，日常生活の中で取り入れる実践例を示したもの。

(2) 下京にくらす人、働く人、訪れる人、学ぶ人誰もが安心・安全にくらせるまちづくりの推進

下京区にくらす人・働く人・訪れる人等、あらゆる人が安心して安全にくらせるまちづくりに向け、身近な地域において各種団体や学区等が連携し、防犯活動や交通安全対策、空き家対策などに取り組むとともに、各団体間の連携・協働を一層推進します。

<取組例>

- 区民ぐるみの安心安全なまちづくり、安心安全ネット継続応援事業（各学区への補助）の推進
- 少年補導，防犯，自主防災，防火活動等，活動目的が共通する団体間の連携・協働
- ビッグデータを活用した交通安全・防犯対策
- 区役所での空き家相談会，管理不全空き家対策
- 防犯パトロール活動をはじめ，玄関先への防犯標語の掲示や防犯カメラ・センサーライトの設置など「見せる防犯」の拡大
- 高齢者の特殊詐欺被害，防犯に関する情報共有や日常的な声かけによる防犯意識の向上
- 子どもの安心安全を守るための通学路における見守り活動

～区民による取組事例～



宿泊施設と一時避難の協定書を締結

— 菊浜連合会 —

菊浜学区は、木造住宅が多く道路が狭いため、災害時には深刻な被害が発生する恐れがあるとともに、近年学区内で宿泊施設が増加しており、地域との調和が課題となっています。また、学区内では西日本豪雨などにより、地域の防災意識が高まっていました。そこで、災害時に高齢者や障害のある人などの配慮が必要な地域住民の一時避難場所として宿泊施設を提供してもらえよう、菊浜連合会が学区内の宿泊施設に働きかけ、協定が締結されました。

新型コロナウイルスの影響により、避難所では感染拡大防止対策として3密の回避が必要とされ、避難所の収容力を確保するうえでも大変有効であり、今後も地域と宿泊施設が共存できる取組が広がることが期待されます。



▲協定締結の様子(令和2年7月)

戦略6 京都の元気をけん引するまちづくり

【方向性】

起業家やクリエイティブな人々・企業を呼び込み、文化と経済の融合、異分野との交流によるイノベーションの創出、スタートアップ・エコシステム[※]の形成を加速させるとともに、地域文化の継承・発展につながる観光推進等により、持続可能な地域経済の好循環を生み出し、京都の活力をけん引する創造的なまちづくりを進めます。

★リーディングプロジェクト

★下京区の東西エリアが交流・融合する「クリエイティブエリア」の創出（1）

京都芸大が移転する東部エリアと京都リサーチパークや創業・イノベーション拠点（淳風 bizQ）等が集積する西部エリアの強味を生かし、区内各所に文化、芸術、食、ものづくり、観光など多様な分野が融合し、人材、企業等が活動する「クリエイティブエリア」の創出及び地域との連携・交流を図ります。

★伝統産業職人と芸術系大学生の連携・コラボレーション（2）

区内の伝統産業職人と移転予定の京都芸大や京都美術工芸大学の学生が連携し、新たな伝統産業製品の開発や販路開拓につなげるなど産業振興を図るとともに、学生も伝統技術や商品開発の知識、ノウハウを学ぶなど職人、学生双方がメリットを享受できる取組を支援します。

★地域の多彩な歴史的・文化資源の掘り起こしと魅力発信、マイクロツーリズムの推進（3）

区民や事業者が区内の歴史的・文化資源の新たな発掘に努め、その魅力を広く発信することで、ウィズコロナ、ポストコロナ時代を踏まえた新たな観光手法としてのマイクロツーリズム（地元、近隣への観光）の推進を図ります。

【推進施策】

（1）世界に羽ばたく起業家を支援する「スタートアップ[※]の聖地・下京」の推進

新たな価値を創造する「クリエイティブエリア」をめざし、世界に羽ばたく起業家の創出・育成を支援するとともに、地域文化や芸術など異分野との交流を通じた新たな価値の創造やソーシャルイノベーション（社会・地域課題を解決する革新的な方法・技術）の創出を促進します。

＜取組例＞

- 京都リサーチパーク地区内に集積する産業支援機関、京都経済センターを拠点とする経済団体等との連携によるスタートアップ創出や地域企業の活動支援
- 創業・イノベーション拠点（淳風 bizQ）や京都芸大移転を機に整備されるスタートアップ創出拠点と地域との連携・交流推進
- 京都市ソーシャルイノベーション研究所（SILK）との連携による社会課題・地域課題の解決、イノベーションが生まれるエコシステムの構築
- 地域の事業者や起業家を中心とした協議体「梅小路コモンズ」による、JR梅小路京都西駅エリアにおける「クリエイティブタウン」化の推進

※ スタートアップ・エコシステム：複数のスタートアップ企業や、大企業、投資家等の多様な関係者が結びつき、循環しながら広く共存共栄していくしくみ。

※ スタートアップ：新しいビジネスモデルで急成長をめざす新興企業。

(2) 京都芸大移転を生かした芸術活動と地域・生活文化の融合

京都芸大や京都美術工芸大学などの芸術系大学・学生と地域との連携を進め、芸術活動と地域・生活文化が融合することにより、まちの魅力の発信、地域課題の解決等につなげます。また、その活動を通じて学生が地域に愛着を持ち、京都に住み、地域に根差した活動ができるよう支援します。

<取組例>

- 学生が地域に出て学ぶしくみづくり、学生による地域の課題解決の取組推進
- 「まちなかアートギャラリー」などアーティストの活動の場の提供（店舗、空き店舗、寺社、京都リサーチパーク中庭等）
- 文化庁の京都移転を契機とした、区民が多様な文化に触れ、伝統文化、くらしの文化を含めた京都文化遺産[※]の維持継承や、新たな文化の創造に取り組む機会の創出
- 京都芸大や芸術家、起業家などを地域に迎え入れ、支える機運醸成と環境づくり（活動の場、雇用、定住）への協力

(3) 地域と調和した京都駅、梅小路周辺のさらなるにぎわい創出と回遊性向上

市民（地域）、観光客及び観光事業者・従事者等が共に調和を図りながら地域文化の継承と新たな地域資源の発掘・発信により、同エリアの回遊性向上を図ります。

<取組例>

- 下京・京都駅前サマーフェスタ、梅小路みんながつながるプロジェクトなど民間のまちづくり団体等と連携した取組の推進
- 京都市中央市場施設整備に伴う「にぎわいゾーン」活用事業等によるJR梅小路京都西駅周辺エリアの回遊性向上
- 「梅小路京都西・七条通賑わいづくり協議会」（仮称）による、JR梅小路京都西駅周辺エリアや七条通沿いを中心とした商店街活性化の取組の推進
- 東本願寺前の市民緑地を核とした、新たな交流とネットワークの構築による京都駅前周辺地域活性化の推進
- 西部エリア、東部エリア、東南部エリアなど京都駅周辺の各エリアのネットワーク強化、広域的な人の流れの創出
- 下京区観光パッケージの開発（活動団体や旅行業者と連携して、ゲストハウス、飲食店、芸術スポット、「知る人ぞ知る下京区の魅力」スポットなどをパックにして提供）とオンラインツアーの開催支援
- 世界中から訪れる人々の下京の伝統文化、産業の魅力に触れる体験等を通じた国際交流の推進
- 「ろうそくの灯り」を生かしたライトアップイベント「しもぎょう伝燈祭」、伝統産業製品の展示等による観光の創出
- 高瀬川再生プロジェクトと連携した、高瀬川の歴史的・文化的つながりを生かした地域活性化支援
- 地域の歴史・魅力の掘り起こしと発信、魅力的なエリアと活動する人々同士のネットワーク化
- ウィズコロナ、ポストコロナ時代の観光客への新たなおもてなしの創出
- 区内の商店や事業所サービス等の積極的利用による地域経済の好循環の促進
- 地域の魅力を改めて見つめ直し、3密を避けながら地元や近隣で楽しむ小旅行スタイルの情報発信及び推進

※ 京都文化遺産：文化財保護法及び京都市文化財保護条例による保護の対象となる「文化財」に限らず、京都の人々の生活、歴史と文化の理解のために欠くことができない有形・無形のもの全てを指す。

(4) 地域コミュニティの核となる持続可能な商店街づくり

商店街と地域団体との連携等の方法により、芸術活動の発表や地域資源の掘り起こしによるブランディング化など、商店街の魅力と発信力を高め、区民や観光客等の来街者を呼び込みます。商店街に人が増えることにより、空き店舗の活用や後継者の育成が進み、さらなる来街者を呼び込む好循環をめざします。

<取組例>

- 芸術系大学等との連携による地域の魅力を発信する作品発表の場や定期演奏会の開催の場としての店舗活用等による商店街の魅力向上
- 学生との連携による商店街の地域資源を生かした名物商品の創出・販売促進、観光誘客の推進
- 持続可能な商店街に向けた取組への支援（空き店舗の活用促進、後継者の育成等）



～区民による取組事例～

京都芸大との協働の取組

令和5年の京都芸大の崇仁地域への移転に向け、これまで住民や芸大生によるさまざまな取組が進められてきました（移転整備により解体される元崇仁小学校での芸大卒業生等の作品展や小学校にまつわる資料の展覧会、芸大生が中心となって店舗のデザイン等を行った「崇仁新町」、東部エリア活性化に向け芸大院生等との連携で発行した情報誌など）。また、市営住宅の一角には芸大出身作家によるアトリエ、プロジェクトルームが開設され、アートや地域情報が発信されるなど、芸術の輪を地域に広げるとともに、芸大関係者と連携した地域活性化の取組が進んでいます。



▲ふれ愛ひろばでの京都芸大ブース出展の様子

コロナ禍での飲食店応援、地域資源や文化の継承・発掘に関するまちづくり活動の取組

下京区まちづくりサポート事業「SHITMOGYO+GOOD」では、新型コロナウイルスの課題解決を図る提案事業を募集・採択し、活動を支援しています。コロナ禍で課題を抱える地域の飲食店、商店街を応援するため、新たな出店機会の提供や商店街、周辺飲食店のマップづくり、食やホテルをテーマとした産業モデルの創出などさまざまな取組が展開されています。また、地域の誇りある歴史・魅力を次世代に引き継ぐとともに区内外に広く発信するため、地域の職人や伝統産業、歴史にまつわる物語をWeb上で発信するなど、区民による地域の魅力的な資源や文化を生かした取組が進んでいます。

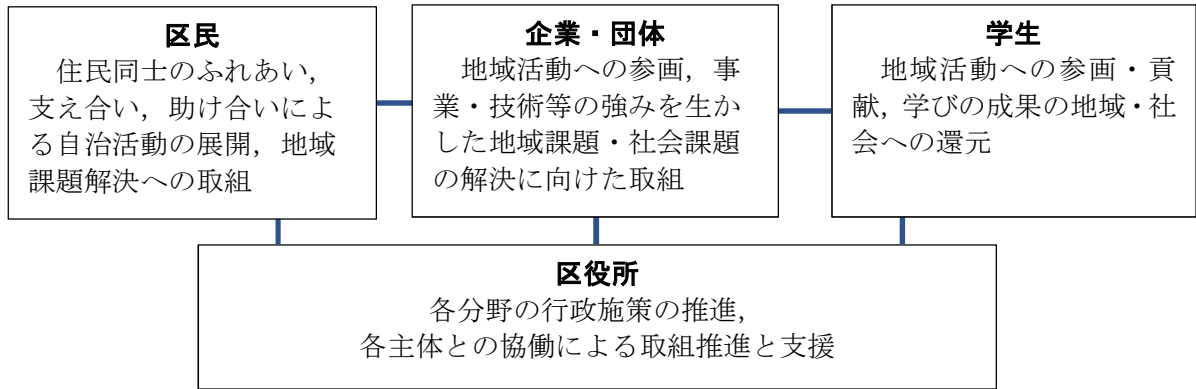


▲松原通界隈活性化活動プロジェクト実行委員会の取組

8 計画の推進に当たって

(1) さまざまな主体の役割分担と協働により計画を推進

計画の推進に当たっては、区役所、区民、企業・団体、学生等がそれぞれの役割を果たすとともに、各主体が連携・協働して重点戦略1～6に掲げるリーディングプロジェクトをはじめとした取組を「自分ごと、みんなごとのまちづくり」として進めることで、京都のまち全体の活性化に結びつけます。



「自分ごと、みんなごとのまちづくり」のさらなる推進



京都のまち全体の活性化



(2) 推進体制

① 下京区民まちづくり会議による進捗確認

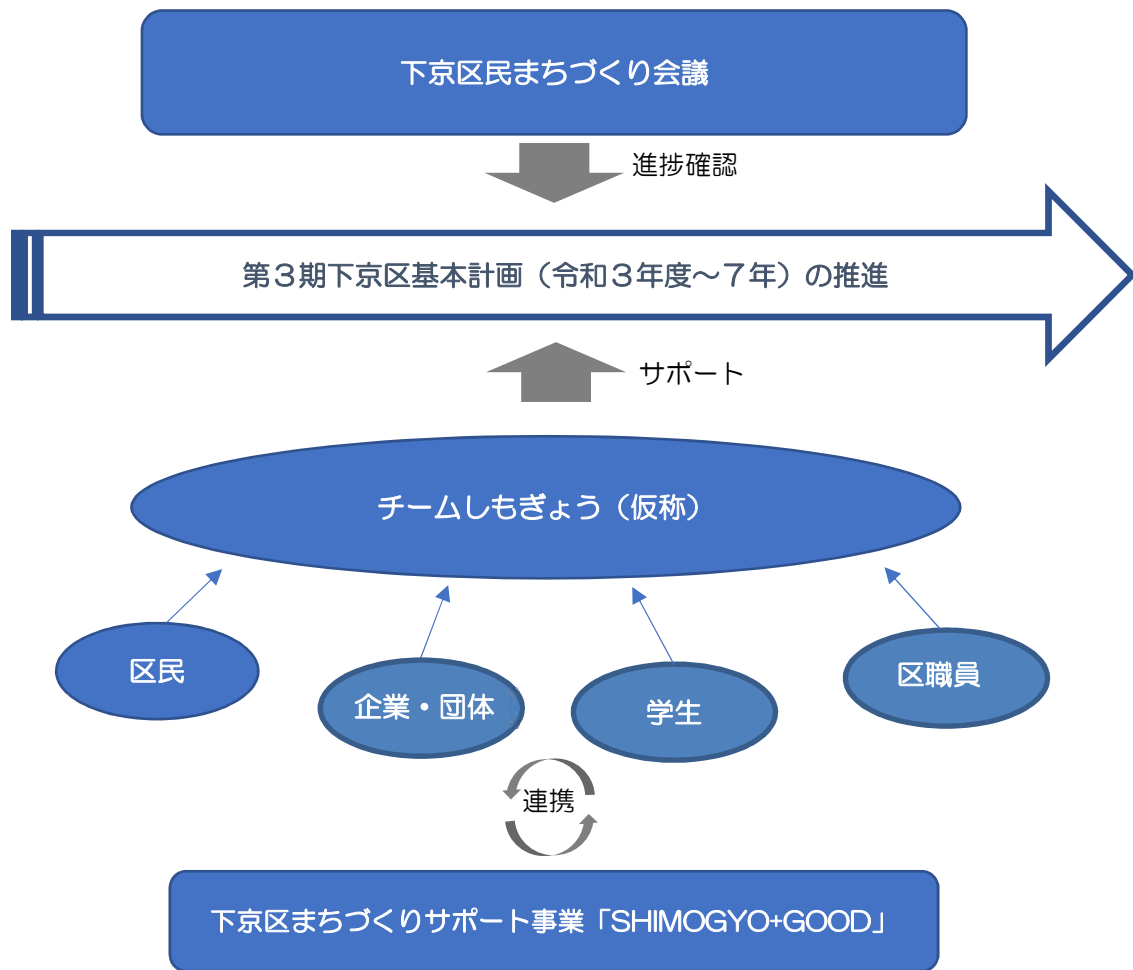
計画の推進に当たっては、下京区民まちづくり会議において、進捗状況の報告・確認を行い、今後の推進方策等について議論します。

下京区民まちづくり会議の構成については、140周年記念事業で培われたさまざまな団体、企業等との連携を生かし、これまでの自治連合会、市政協力委員連絡協議会、各種団体に加え、新たに学識者、経済界、産業支援機関、事業者、学生・大学に参画いただくことを検討します。

② チームしもぎょう（仮称）によるサポート

計画を効果的に推進するため、下京を愛する区民、企業・団体、学生、区役所職員からなる「チームしもぎょう（仮称）」を組織し、区の情報発信や地域の魅力発信をはじめ、計画の各戦略に掲げる取組を進めます。また、下京区まちづくりサポート事業「SHIMOGYO+GOOD」の活動団体や事業成果とも連携し、地域課題解決等が継続的に図られるようバックアップします。

下京区基本計画推進体制



持続可能な行財政の確立と計画の推進

京都市では、これまで徹底した行財政改革により、全国トップ水準の福祉・医療・教育・子育て支援等の行政サービスを維持し、保育所など待機児童7年連続ゼロを達成するなど大きな成果をあげてきたところです。しかしながら、国からの地方交付税の大幅な削減や、収入の伸び悩み、高齢化による社会福祉関係経費支出の増加に加え、今般の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、市税収入の回復が見込めず、今後、10年以上にわたり、毎年500～750億円の収支不足を見込み、最悪の場合は、財政再生団体になる危機に直面しています。

このため、下京区では区民の皆様の御理解の下、真に必要な施策を持続可能にするための事業見直しをはじめ、事業者、団体からの提案事業の支援等を通じた民間活力の導入、積極的な成長戦略の推進と経済活動活性化、若者・子育て世代の定住促進等でもたらされる担税力の強化、ふるさと納税などさらなる財源確保により、持続可能な行財政を確立し、計画の効果的な推進を図ります。

9 参考資料

■ 計画策定の経過

<p>令和元年 10月3日</p>	<p>○第1回区民まちづくり会議 第2期計画の総括及び次期計画のための重点テーマに基づく部会を設置</p> <p>○区長Meet up（区長懇談会） 持続可能な地域コミュニティのための方策について、ワークショップ形式で議論</p>
<p>10月4日</p>	<p>○下京みらい数珠つなぎプロジェクト グループに分かれてワークショップを開催</p>
<p>11月13日</p>	<p>○第1回区民まちづくり会議部会 部会ごとにそれぞれのテーマに関して議論</p>
<p>12月9日</p>	<p>○下京アフターアワーズ（まちカフェ事業） いただいた御意見を重要テーマの意見として採用</p>
<p>令和2年 1月16日</p>	<p>○第2回区民まちづくり会議部会 それぞれの分野を超えて連携・協働できる取組について議論</p>
<p>3月4日</p>	<p>○第3回区民まちづくり会議部会（書面開催） 重要テーマごとの方向性、取組等について書面での意見提出を依頼</p>
<p>9月14日</p>	<p>○令和2年度第1回区民まちづくり会議 計画骨子（案）について議論</p>
<p>11月30日</p>	<p>○令和2年度第2回区民まちづくり会議 計画素案について議論</p>